

第3回日本近視学会総会のご案内



開催日程：2021年5月22日(土)・23日(日)
開催場所：赤坂インターシティコンファレンス
演題登録締切：2021年2月10日(水)11:00
事前参加締切：2021年4月12日(月)17:00

主なプログラム

招待講演1：「Novel Anti-myopia Eye drops.」
Suh-Hang H. Juo 教授 (Inst of New Drug Development, China Med Univ, Taiwan)
招待講演2：「Low-concentration atropine for myopia control.」
Jason C. Yam 先生 (The Chinese Univ of Hong Kong)
シンポジウム1：眼疾患における近視の影響
シンポジウム2：近視の疫学と進行予防
教育セミナー：近視外来の Update

フォトアルバム



2月 Jakarta Eye Center 学会



6月 WOC2020 Virtual



11月 臨眼 2020 ドライアイシンポジウム

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<12th Eye Center Summit>

2021年4月17日(土)17:30~20:00(予定)
場所：丸ビルホール&コンファレンススクエア 7F「丸ビルホール」
会費：2,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

講演1「ドライアイ診療、最新の進歩」

島崎潤先生(東京歯科大学市川総合病院 教授)

講演2「OCT、OCTAなど最新の検査器機から学ぶ黄斑疾患の病態と治療戦略」
辻川明孝先生(京都大学大学院医学研究科眼科学 教授)

<第11回東京多摩眼科連携セミナー>

2021年5月15日(土)14:30~17:00 場所：杏林大学 大学院講堂

会費：1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

「精神神経関連(仮)」渡邊 衡一郎先生(杏林大学医学部精神神経科学教室 教授)

編集部からのコメント

COVID-19 感染拡大防止のため、病診連携などご配慮をいただきありがとうございます。大学病院、医学部教育もコロナの影響を受けて、毎日変動する状況対応に追われています。こんなときこそ、医療に従事する初心を思いかえしながら、各自の欲を抑えて、皆が協力しあうことの大切さを感じています。石田講師をはじめ新入局員もアイセンターに新鮮な風を吹き込みながら張り切っていますので、患者様のご紹介などをよろしくお願いいたします。(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 60
Autumn
2020

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆学内講師就任の挨拶(石田 友香)<1-2> ◆第3回日本近視学会総会のご案内<4>
- ◆眼窩外来の紹介(斎藤 恒浩)<3> ◆フォトアルバム<4>
- ◆新入局員の挨拶(高橋 綾)<3> ◆イベント情報<4>
- ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者:括弧に明記 production:岡田アナベルあやめ、中山真紀子、富田茜、仲嶋みずき、草壁裕子>

学内講師就任の挨拶(石田 友香)



2018年4月から杏林大学に入局させていただき、今年4月に学内講師に就任いたしました石田友香です。平成16年に東京医科歯科大学を卒業し、スーパーローテーションののち、平成18年に医科歯科大眼科に入局しました。1年の大学での研修ののち、2年ずつのローテーションで、都立駒込病院で白内障手術と網膜硝子体、都立大塚病院で未熟児網膜症、公社荏原病院で一般眼科と網膜硝子体を学び、週一回大学のメディカルレチナ外来で臨床研究を行っていました。二人目の子供を妊娠しているとき、都立病院での常勤での仕事と二人の子育ての両立はもう無理なのではないか医局をやめようとしたところを、当時の望月教授が、学生に戻って勉学を積みながらキャリアをつなげなさいと大学院生の席を用意してくださり、次女の産産時の産休取得に合わせ、医科歯科

大の大学院に入学しました。

大学院の4年間は子育ての傍ら、加齢黄斑変性症と長寿遺伝子 Sirt1 の関連について基礎研究、強度近視外来と黄斑外来における臨床研究を学びました。時には当直の先生に子供をみてもらいながら細胞の培養液を替えたことさえもありましたし、赤ちゃん連れでのカンファレンスや勉強会の参加も当時の大野教授が許してくださり、医局全体に応援してもらいながら乗り越えました。子育てと仕事は、仕事の仲間、夫、両親、夫の両親、保育園の先生方、ママ友、すべての周りの人たちに助けられました。いつか力をつけたら、自分よりも弱い立場にある人に必ずこうやって手を差し伸べられる人間になろうと、その時に思った気持ちは、今もずっと続いています。

大学院の卒業後は医科歯科大の助教となり、網膜硝子体班で臨床復帰しました。出産や子育て期間や基礎研究の期間もあり、さらに私の実力も不足し、目の前の患者さんに選択しうるなかでもっともよい診療を提供できているのだろうかと思ひ、臨床に行き詰まりを感じる一年でした。そんなとき、夫が突然、「杏林に国内留学してブレイクスルーしたほうがいい、若いころの夢だったじゃない」と言ってくれました。通勤に1時間かかるし、夜も遅いだろう、休日出勤も多いだろうと、密に諦めた夢を夫はわかっていたらしく、そう言ってくれたのでした。こんなに学年が上がってから来られても杏林の先生たちもやりにくいのでは?とか、家庭との両立ができないのでは?など逆風もありましたが、親や夫の家族も背中を押してくれ、大野教授と平形教授の許可が得られ、VRフェローとして国内留学させていただくことになったのです。

